

## グローバル人材育成プログラムを終えて

登内 萌日  
Moeka TONOUCHI  
電子情報学科 3年

### 1. はじめに

2018年8月22日から9月8日にかけてアメリカのカリフォルニア州ベイエリアにてグローバル人材育成プログラムに参加し、ホームステイをしながらインターンシップを行いました。今回の実習の主な目的はインターンシップを通してグローバル人材に必要なものは何か、世界で活躍できる人材になるために必要なスキルや意識は何かを学ぶことでした。今回のプログラムの概要を表1に示す。

表1 プログラム概要

8月22日	出国, シリコンバレーツアー
8月23日	シリコンバレーツアー
8月24日	キャリアセミナー
8月25日	交流会
8月28日   9月7日	インターンシップ
9月8日	帰国

### 2. 研修内容

#### 2.1 参加目的

今回のこのプログラムに参加した目的は、日本と海外の文化の違いや働き方の違いを学ぶことと英会話能力の向上です。昔から海外で働くことに興味があり、今回このプログラムを知ったときいい機会だと思い参加を決意しました。また、海外で生活するのに必要な英語力を知り、今後の英語学習の意欲に繋げようという思いで実習に臨みました。

#### 2.2 シリコンバレーツアー

シリコンバレーツアーではサンフランシスコの観光や Google や Apple といった大手 IT 企業の訪問、見学を行いました。ふだん立ち入ることができない施設やオフィス内の見学もできたくさんの刺激を受けました。特に、SAP 本社の坪田さんのお話、スタンフォード大学内にある d.school 見学を通しデザインシンキングという考え方に興味を持ちました。デザインシンキングは問題を正しく解決する考え方のことで、シリコンバレーで IT 産業が発展したのもデザインシンキングが大きく影響しています。また、訪問した多くの企業のオフィスが、オフィスということを忘れるほど自由な空間だったも印象に残っています。社内にジムがあったり自由に食べられるスナックやドリンクがおいてあったり、こういった自由な環境からもユニークなアイデアが生まれてくるんだろうなということを実感しました。

#### 2.3 グローバルキャリアセミナー

グローバルキャリアセミナーでは、現地で活躍されている方に実際にマネジメントや投資といった様々な立場からお話を伺いました。イノベーションの定義やシリコンバレーにおけるベンチャー企業の取り組みなどとても興味深い内容でした。講演をしていただいた方に共通していたのは、きちんと目標を持つこととその目標に対する努力を惜しまないことでした。また、日本とアメリカの失敗に対する捉え方の違いから失敗に恐れずに何事にも挑戦することの大切さも教えていただきました。

#### 2.4 ホームステイ

私がホームステイさせていただいたのはアメリカ人の母と娘の2人暮らしのご家庭でした。旦那さんとは別で暮らしている様子でしたがホームステイ最終日に BBQ をした際には旦那さんやそのご友人も参加し、たくさんの方々と交流することができました。ディナーは毎食手作りでホストマザーがアメリ

カのご家庭料理を振る舞っていただきました。夕食後にはホストファミリーとたくさん会話もでき、まるで家族の一員であるかのように接していただきました。初めてのホームステイで不安も大きかったですが、本当に親切で開放的な家庭だったので2週間充実した日々を過ごすことができました。

### 3. インターンシップ

#### 3.1 企業概念

私はサンフランシスコのジャパントウンにある Candy Doll Beauty という化粧品会社で働かせていただきました。ここはアメリカ人向けに日本や韓国の化粧品販売を行う会社で、実店舗以外にオンラインショッピングでも販売を行っています。

#### 3.2 インターンシップで学んだこと

主な研修内容はお客様への商品説明、レジ打ち、商品の在庫確認でした。スタッフにも日本人の方はおらずお客様も海外の方なので、全く日本語が通じない環境に最初は戸惑ってばかりでした。初めは商品の場所を案内するので精一杯でしたが、だんだん耳が慣れ少しずつ喋れるようになってくるとたくさんの商品の中からお客様に最も合う商品を選んであげたいという欲が出てくるようになりました。取り扱っている商品の多くは日本製で、表示も日本語のままだったのでこれがどんな商品でどんな肌トラブルを持っているお客様に合った化粧品なのかは簡単に理解することができました。しかし日本語では理解できても、これを英語で説明するとなると表現が難しかったり今まで知らなかった単語が出てきたり

と、上手く説明できずにもどかしさを感じる場面が多々ありました。お客様に対して中途半端な説明になってしまった時もありましたが、私が選んだ商品をお客様が購入してくださった時や、最後まで説明を聞いてくださったお客様に「ありがとう」と言われた時にはやりがいを感じることができました。うまく英語を喋れなくても言葉以外の表現方法、ジェスチャーや視線、顔の表情などからもコミュニケーションをとることが可能だということを知ることができたのは自分にとって大きな収穫だったと思います。

### 4. おわりに

出発前は不安とは裏腹に、終わってみると3週間では物足りないと感じるほどあっという間の実習でした。文化の違いや言語の違いに戸惑うこともありましたが、アメリカでの生活は毎日が刺激の連続で自分にとって本当に有意義なものだったとおもいます。

この実習を通してグローバル人材とは、ただ英語が喋れて海外で働けるだけでなく、異文化を理解し、他者を理解しそれを受け入れられることができる人であると考えました。また具体的な目標を持つことと、失敗を恐れず何事にも挑戦できる度胸が今の自分に最も必要なことだと実感しました。英語の重要性も改めて感じる事ができたので、今後語学力の向上にも努めていきたいです。

最後に、このプログラムを通してお世話になったホストファミリーをはじめ Candy Doll Beauty の皆様には心から感謝しています。